

受講者の声 毎年多くの方々に参加いただき、ご好評いただいております。

それぞれ講師の方の熱のこもった講義には、業種によって様々な事業経営のポイントがあり、また自社にも共感できるポイントなどがありとても勉強になります。そして、第二部の異業種交流会は刺激的で、全員で講義の感想等を発表し合うことで、さらに講義の内容を深堀りすることができ、自分自身の日々の仕事のヒントにも繋がっております。
(30代・会社員)

CUC中小企業マネジメントスクールへの参加は早いもので丸3年になります。他の勉強会にも属していますが、「講義、質疑応答、飲み会で言いたい放題」のスタイルは他に例が無く、私の勉強会への参加率は現在一番高いものとなっています。また、異業種交流の場としても非常に濃いものとなっています。参加お待ちしております。
(50代・会社経営者)

経営者の企業理念を直接聞けるのが最大の魅力です。その独自性も興味深いですが、共通点を見つけ出すことも勉強になります。持続性を目指すこと、そのために従業員の自主性と経営参画を期待していること、そして現在の事業の発展に加え、次世代の飯のタネを常に求めていることなどが私の感じた共通点です。自社でも役立つポイントを探し、ここでの学びを自社の発展に繋がりたいと思います。
(50代・会社役員)

第一部会の勉強会では、机上論ではなく、実際に会社を運営している方の、これまでの経験に基づくリアリティのある話を聞くことができます。また、質問や意見のやりとりを通じて、単なる会社経営に関してだけでなく、「仕事とは何か」、「生きるとは何か」といった深い話にいたることも多いです。さらに異業種交流会の第二部では、より核心に迫った刺激的な意見のやりとりが行われます！
(40代・会社員)

私は2013年からCUC中小企業マネジメントスクールに参加して、様々な経営者の方々から幾つもの知恵や活力を頂きました。仕事にかかわる姿勢や工夫の源になっています。マネジメントスクールでの毎月の学びは、自分自身の成長、会社や地域の発展への貢献につながります。共に学びましょう。
(50代・会社員)

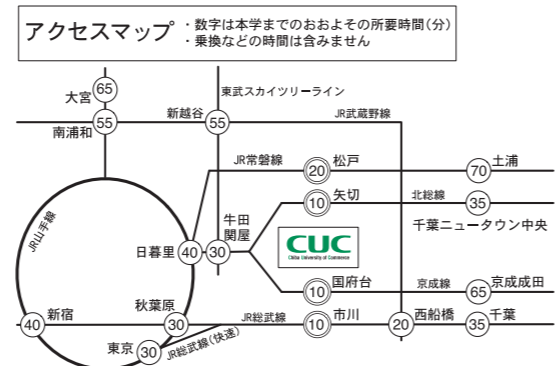
CUC中小企業マネジメントスクールは学びの場でもあり、出会いの場でもあります。壇上に立つ中小企業の社長様方の経営術を聞き学び、実際に質問して語り合う。聞けば聞く程、その独自の経営術や従業員に対する接し方などに深く頷かされます。どの社長様も、売上よりも、従業員とお客様を大切にされている方々ばかりでした。自分の仕事にも大いに参考になりました。
(30代・会計事務所勤務)

- 主催 千葉商科大学 地域連携推進センター
- 協力 生々塾(本スクール修了生の経営学習会)
- 後援 市川市・江戸川区・ちばしんきんコラボ産学官(千葉信用金庫)・城南信用金庫・東京東信用金庫・千葉県中小企業家同友会・千葉県経営者協会・市川商工会議所

■CUC中小企業マネジメントスクールは、次の企業様からご支援・ご協力をいただいております。
(株)市川ビル、(株)加藤新聞舗、山崎製パン(株)、(株)アービック、(株)ヒカリシステム、(株)ヒロハマ、京葉瓦斯(株)、(株)市川環境エンジニアリング、松瀬キャリア教育研究所、(株)京葉銀行、(株)千葉銀行、(株)千葉興業銀行(順不同)

〈千葉商科大学へのアクセス〉

- JR総武線「市川駅」下車：徒歩約20分
(バス利用は、駅前京成バス1番乗り場から松戸駅または松戸営業所行に乗車約10分「和洋女子大前」下車：徒歩3分)
- 京成線「国府台駅」下車：徒歩約10分
- 北総線「矢切駅」下車：徒歩約20分
(バス利用は、駅前京成バス乗り場から市川駅行に乗車約10分、「和洋女子大前」下車：徒歩約3分)
- JR常磐線「松戸駅」下車：京成バス3番のりばから市川駅行に乗車約20分「和洋女子大前」下車：徒歩3分



第23回 募集要項

2019 CUC中小企業マネジメントスクール 経営革新を推進する セミナー 受講生募集!

「優れた会社は人を呼ぶ」

企業や組織のマネジメントに携わる経営者・実務家、
起業を志す学生・社会人に向けた中小企業経営の革新と
創造的リーダーの育成を目指すセミナー

受講期間：2019年5月11日(土)～2020年1月11日(土)

毎月1回第2土曜日開講(全8回・スケジュールは次頁をご覧ください)

- ◆第1部/勉強会 15:00～17:00 全8回
- ◆第2部/異業種交流会 17:30～19:00 自由参加/飲食付(無料)

- 定員 — 50名(最少実施人数20名)
- 受講料 — 25,000円 単発での参加も可(但し、受講料5,000円/1回) ※団体割引あり
- 会場 — 千葉商科大学(アクセス参照) ※公共交通機関をご利用ください。
- 申込締切日 — [第1次締切] 2019年5月8日(水)
- 申込詳細 — 大学Webページ「CUC中小企業マネジメントスクール」をご覧ください。お申込みフォームでお申し込みください。
※右記QRコードからアクセスいただけます。



■お申し込み・お問い合わせ

千葉商科大学 公開講座 係
TEL:047-372-4111 FAX:047-371-6881 E-mail:cucr_open@cuc.ac.jp http://www.cuc.ac.jp/
◎お申込みの際にしてお寄せいただいた個人情報は、本講座に関する事務連絡以外の目的には使用いたしません。

経営の革新と創造的リーダーの育成 「優れた会社は人を呼ぶ」



千葉商科大学学長
原科 幸彦

エシカルかつサステナブルで事業収益を追求する「高德の実業人」とは

創設者の遠藤隆吉博士は本学の前身となる巣鴨高等商業学校の設立理念に「実業は決して己の利益のみを目指すものではなく、社会に奉仕することを目的とする立派な事業である」と記し、高い倫理観を持つ「治道家」の育成を本学の教育理念としました。「治道家」とは、今日的な意味ではSDGs(国連の提唱する持続可能な開発目標)に取組み、エシカルかつサステナブルで事業収益を追求する「高德の実業人」を意味します。

本学は学長プロジェクトを起点として幅広くSDGsの目標をカバーし、社会に貢献するために「教育研究地域貢献活動」を推進しています。その一環として、本年2月には、2018年度目標の「本学をネットで日本初の『RE100大学(発電)』にする(本学所有のメガソーラー野田発電所等の発電量と千葉商科大学の消費電力量を同量にする)」ことを達成しました。

優れた中小企業の多くは、経営革新を通じて市場環境の変化に積極的に対応しながら事業を継続・発展させてきました。多くの方々がこの「CUC中小企業マネジメントスクール」で講師をされる経営者の実践・経験を学び、エシカルかつサステナブルな企業づくりをされることを願っております。



ちばしんきんコラボ産学官代表理事
(千葉信用金庫理事長)
宮澤 英男

お客様の課題を解決し、ともに成長していくことこそ本業である

千葉信用金庫は昨年度、第6次中期経営計画「変革への挑戦」を策定しました。引き続き、地域で最も頼りになる金融機関としての地位を確立するため、「お客様の課題を解決し、ともに成長していくことこそ本業である」との覚悟をもって、お客様第一主義の精神とともに、地域社会やお客様との共存共栄を目指していきます。

今後も、各種相談会・セミナーの実施やビジネスマッチング機会の提供など、地域の経済や社会の活性化に貢献していくとともに、コンサルティング機能を積極的に発揮して、お客様の経営課題に応じた最適な解決策を、お客様の立場に立って提案・支援してまいります。

こうした取り組みの1つである「ちばしんきんコラボ産学官」は、中小企業にとって、身近な金融機関である信用金庫が産学連携の窓口となることで、専門的な知識・技術を必要とする県内中小企業と研究成果を産業に活かそうとする大学等研究機関との橋渡しを行う目的で、当金庫が事務局となって2007年3月に設立しました。会員企業を訪問し技術課題や経営課題に対応するとともに、各地でセミナーや相談会を開催する等、地元中小企業への支援活動に取り組んでおります。

今年度の「CUC中小企業マネジメントスクール」には、共通テーマ「優れた会社は人を呼ぶ」に相応しい会員企業をいくつか推薦させて頂きました。受講生の皆様が、このスクールでの学びを今後の企業経営に生かして下さることを期待しております。

コーディネーター



千葉商科大学
商経学部准教授
三田村 智

優れた会社への飛躍を目指す、経営革新のヒントを

人手不足、人材育成、社員間の意思疎通、顧客の囲い込み、取引先との関係、地域社会とのつながり等々、中小企業の「人に関する問題」は、枚挙に遑がありません。

しかしながら、これらの問題と真摯に向き合い、さまざまな工夫を模索してきた企業は大きな飛躍を遂げています。優れた会社 → 優れた人材の育成・確保 → 優れた商品・サービスの提供 → 顧客、取引先、地域社会からの高い評価 → さらに優れた会社への飛躍、といった好循環を生み出すための秘訣はどこにあるのでしょうか。

23回目をむかえる「2019 CUC中小企業マネジメントスクール」では、さまざまな「人に関する問題」に独自の取り組みを行ってきた中小企業経営者をお招きし、受講生の皆様と経営革新のヒントを探ってまいります。

CUC中小企業マネジメントスクール 2019年度 講義概要

第1回

2019年
5月11日(土)

地域活性 ～ 金谷の取り組み ～

富洋観光開発株式会社／代表取締役 鈴木 裕士

富津市最南端のまち金谷。背後にそびえる鋸山は江戸期より約300年間房州石の採石が行われておりました。切り出された石は日本の近代化を支えたと言われております。過疎化、少子高齢化に悩むこのまちで観光業を主軸にしている弊社が、地域の歴史文化を大切にしながら地域活性を行なって来た軌跡をお話しさせていただきます。

第2回

2019年
6月8日(土)

製造業の見積もり業務に異次元のスピードと正確性を ～ クラウド見積りネットワークの目指す製造業の未来とは ～

月井精密株式会社／代表取締役 名取 磨一

祖父から事業を継ぐと、若い世代がものづくりに挑戦できる環境を目指して工場のデジタル化を徹底、熟練工がいなくても高難度の精密加工ができるようにしました。さらに見積り業務の効率化から「Terminal Q」を自社開発。このサービスを同業の中小事業者(受注者)にも無料提供し、業界全体での価格の見える化を実現できるクラウド見積りネットワークに発展させてきました。今回はTerminal Qの目指す製造業の未来を中心に話します。

第3回

2019年
7月13日(土)

率先垂範で事業へ挑む ～ 水を通じた社会貢献を ～

原設備工業株式会社／代表取締役 原 宣幸

1970年、22歳で原設備工業を創業し、神奈川県大和市を中心に、公共施設の設備工事や街づくりを手掛けてきました。本業の傍ら、東日本大震災などの大災害が起きると、すぐに現地入りし人員派遣の指揮をとっています。また、アジア各国から受け入れた技能実習生を中小企業へ派遣する活動なども行っております。「率先垂範」をモットーに取り組んできたこれまでの事業活動・社会貢献活動についてお話しします。

第4回

2019年
9月14日(土)

続・インド人経営者から見た日本の企業社会

ジャパン・ビジネス・サービス有限公司／代表取締役 ジャグモハン S. チャンドラニ

1978年来日以來、インド紅茶の輸入販売会社を営んでまいりました。その傍ら、インド人IT技術者の日本での生活を支援するようになり、江戸川区西葛西でインド料理店の経営も行っています。2011年5月にはこのマネジメントスクールで一度講演いたしました。あれから8年が経ち、日本の企業社会は外国人労働者の受け入れなど人材確保に関する新たな問題に直面しています。今回は、インド人経営者である私が日本でのビジネスやふだんの生活の中で気づいたこと、感じたことについて、お話しします。皆様と問題意識を共有する機会になれば幸いです。

第5回

2019年
10月12日(土)

本に書いていない経営の本質

外岡修税理士事務所／税理士・公認会計士 坂本 政史

妻の父の税理士事務所を継ぐことになりました。事務所の平均勤続年数は25年。人が辞めない事務所です。後継者になるのは初めてのことで、たくさんの壁にぶつかりました。車の中で頭を抱え、悩むこともありました。そのとき、妻の父から、番頭さんから、職員さんから、お客様から、あるものを与えられていたことに気が付いたのです。それが後継者にとって一番大切なものでした。後継者にとって大切なもの、妻の父から学んだ経営の本質を様々な角度からお伝えします。

第6回

2019年
11月9日(土)

脱下請けの仕組み作り

株式会社アンバーパートナーズ／代表取締役 中田 隆之

千葉商科大学のOBです。1993年に卒業後、測量の専門学校を経て土地家屋調査士として2001年に独立開業しました。今年で創業18年になります。まだまだ若輩ではありますがこれまでの経験から下記のようなお話をしたいと思います。
(1) 土業業界の変化～資格をとっても食えない時代に (2) 土業に対する社会的ニーズの変化～情報価値の下落
(3) 脱下請けの仕組み作り～仕事をもらうのではなく、作り出す (4) やりがいいカンパニープロジェクト～人が育つ仕組み作り
面白くてためになるお話をいたします。

第7回

2019年
12月14日(土)

小さな町工場3代目奮闘記

有限会社光精工／代表取締役 秋山 大輔

一社依存型の典型的なBtoB下請け町工場を売り上げ95%減という倒産寸前の状態からV字回復させた新米経営者の経験をお話しさせていただきます。無駄を極限まで省き他社より安価に受注するスーパー下請会社を目指すことを断念し、P&W(プレジジョン&わくわく)の理念の下、助成金・クラウドファンディング・コマ大戦・公共機関専門家無料派遣等を活用し周りを巻き込みながらの取り組みは未来へと続きます。

第8回

2020年
1月11日(土)

老舗企業の挑戦 ～ 斬新な取り組みと新たな人材の活用 ～

堀江車輻電装株式会社／代表取締役 堀江 泰

当社はいわゆる中小企業ですが、この10年間で事業継承や新たな事業展開、M&Aを行ってきました。いずれの取り組みでも核となったのは「人材」の活用。先代たちが築いてきた技術と信頼を後世に残し、新たな取り組みの中で会社と社員はどのように変化に対応したのか。企業として新たな一歩を踏み出すために着目した障がい者雇用と新規事業。「柔軟な発想と実行力で、広く深く社会に貢献する」という経営理念のもと行ってきた事業について、実際の経験を中心にお話しします。